



一般社団法人 巨樹の会

下関リハビリテーション病院

SHIMONOSEKI REHABILITATION HOSPITAL

地域に寄り添い、地域と共に

病

院

案

内

回復期リハビリテーション

患者様・ご家族様へ



早期の受け入れ

早期から集中的・効果的な

チーム医療で質の高いリハビリテーションを

基 本 理 念

手には技術、
頭には知識、
患者様には愛を

基 本 方 針

1. 質の高い医療
学問的に、技術的に高い水準の医療を提供します。
2. チーム医療
患者様と医療情報を共有し、患者様のニーズに沿った安全で安心できるチーム医療を提供します。
3. 地域医療
地域の医療・介護・福祉施設と緊密な連携を図り、いつでも誰でも安心して利用できる地域リハビリテーションの中核病院を目指します。



平素より大変お世話になっています。心より感謝申し上げます。

当院は、1974年(昭和49年)4月1日「カマチ医院」として開設したのち、2001年(平成13年)4月1日に名称を「下関リハビリテーション病院」と改め、以来、地域の皆様にリハビリを提供する病院として現在に至っています。

超高齢化社会を迎えた今日はもちろん、またたとえ今後医療がさらに高度化し進歩したとしても、リハビリは患者様の機能回復・自宅退院・社会復帰、そして個人としての社会参加を獲得するにあたって必須の医療手段となっていくものと考えています。

そのような状況の中で、私共は、「地域に密着」し、「地域に寄り添い、地域と共に」の思いを抱き、地域の皆様に「切れ目のないリハビリテーション」を実現することを目標としています。そのためには、障害発生からできるだけ早期のリハビリ介入、入院リハビリ終了後の速やかな外来リハビリへの移行、訪問リハビリの利用、そして通所リハビリへの参加といった一連の流れを確立することが必要だと考えています。そして、その流れの中のどこかで患者様に社会参加実現の機会を獲得していただくことが私共の役目であり喜びであると受け止めています。また、リハビリを希望される方が、この一連の流れのどこからでもリハビリを始めていただけるように努力していきたいと思っています。

私共は、カマチグループの基本理念である「1.質の高い医療 2.チーム医療 3.地域医療」を念頭に置き、患者様の生活の質の向上・維持、安全な生活の獲得・継続を目標に、常に研鑽・努力を惜しまない所存であります。

今後とも、何卒宜しくご指導・ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。



院長 林 研二

Enjoy
Rehabilitation

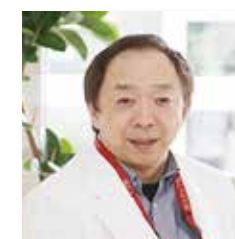


Happy
Rehabilitation

医 師 紹 介



院長
林 研二
◆鳥取大学 昭和51年卒
◆専門分野 心臓血管外科



副院長
小川 浩一
◆徳島大学 平成5年卒
◆専門分野 脳神経外科
脊髄脊椎外科



医局長
多田 建智
◆熊本大学 平成5年卒
◆専門分野 脳神経外科



大田 英則
◆名古屋大学 昭和49年卒
◆専門分野 脳神経外科



田中 敦子
◆山口大学 平成16年卒
◆専門分野 眼科



佐々部 富士男
◆山口大学 昭和59年卒
山口大学大学院 平成元年終了
◆専門分野 神経内科



吉田 光男
◆九州大学 昭和50年卒
◆専門分野 整形外科

病 院 機 能 評 価 の 認 定

初めての病院機能評価認定を高評価で取得しました！

2018年12月7日、8日の両日にわたり、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の審査を初めて受審し、2019年4月5日に高評価で取得しました！



当院におけるリハビリテーションの適応疾患

これらの疾患は、外来リハビリテーションのみの患者様も受け入れしています。

脳疾患



【対象疾患】

- 脳梗塞
- 脳出血・くも膜下出血の発症又は手術後
- 頭部外傷
- 脳腫瘍
- 急性脳症等
- くも膜下出血

一番多いのはいわゆる脳卒中です。麻痺などの運動機能に障害が生じるだけではなく感覚障害や記憶障害、嚥下障害など様々な症状が現れます。早期の専門的なリハビリ介入が不可欠です。



運動器疾患



【対象疾患】

- 大腿骨・骨盤・脊椎の骨折又は手術後
- 股関節又は膝関節の骨折
- 二肢以上の多発骨折の発症後、又は手術後
- 股関節又は膝関節の人工関節手術後
- 筋又は、靱帯損傷後
- 股関節又は膝関節の置換手術後の状態

脊椎(背骨)や大腿骨の骨折が多く大半は高齢者の方が占めています。痛みのため寝たきりになってしまう恐れがありますが適切なリハビリを受ければ怪我をする前と同じ状態で回復することもできます。



心大血管疾患

(心臓リハビリテーション)



【対象疾患】

- 心筋梗塞・狭心症
- 心臓・大血管の術後
- 慢性心不全
- 閉塞性動脈硬化症

心臓に疾患がある方が対象です。有酸素運動を中心とした運動療法で持久力を高め心疾患の改善や再発を予防します。当院では令和2年11月30日までに専門チームによる686症例の心臓リハビリテーション実績があります。



脊椎脊髄疾患



【対象疾患】

- 脊椎脊髄損傷及びその術後
- 脊椎変性疾患及びその術後

脊髄損傷の方は運動・感覚・自律神経障害など特有の症状があります。損傷位置によって目指すべきゴールが異なるため極めて高い専門性が必要となります。当院では専門チームによるリハビリを行います。



神経難病



【対象疾患】

- パーキンソン病
- 多発性硬化症
- 脊髄小脳変性症
- 筋萎縮性側索硬化症等による
- 歩行障害
- 日常生活動作の障害
- 嚥下障害

神経難病患者は、運動機能を維持、改善するためにリハビリは欠かせません。現在できる最大限の能力を発揮できるように、個々に応じた運動プログラムを提供します。特にパーキンソン病に関しては、米国で開発されたLSVTプログラムを用いて発声や運動能力の向上を図っています。



廃用症候群



【対象疾患】

- 誤嚥性肺炎後
- 過敏性肺炎後
- 胸部・腹部の手術後等

病気や怪我で長期間寝たきりになっていると生じる二次的な疾患です。特に高齢者に多くみられ骨萎縮や関節拘縮褥瘡などの合併症が生じますがリハビリを行えば予防できる疾患です。当院では離床の促しや個別のリハビリ、自主練習で改善し予防します。



医療連携室



入院から退院後まで患者様やご家族が安心して過ごせるように

現在看護師3名、退院支援看護師3名、医療ソーシャルワーカー8名が在籍しています。

私たち医療連携室のスタッフは、地域の医療機関との連携を図り患者様がスムーズに入院して頂けるよう日々努力しています。

また患者様やご家族からの様々な相談をお受けし、必要に応じて各種関係機関との連携やあらゆる制度・サービスの活用を行い、共に問題に向き合いながら解決できるように支援しています。

入院から退院後の生活まで、患者様やご家族が安心して過ごせるようお手伝いしています。

どんな些細なことでも構いません。いつでもお気軽にご相談ください。

相談受付

TEL **083-232-5811** 月曜日～土曜日(祝祭日のぞく)

メールでのご相談 **renkei@shimoreha.jp**



患者様一人ひとりの生活スタイルに合わせたリハビリを行います

令和4年度
当院在宅復帰率
84.5%
全国平均 **77.9%**

目標はあくまでも
「ご自宅に復帰すること」

院長 林 研二



当院では、在宅復帰を目指したリハビリを積極的に行っています。



■リハビリ専門職約160名がマンツーマンでリハビリを実施します。

早朝(AM7:00～)および夕方(～PM19:00)にリハビリで関われる体制を整えています。朝、起床して間もない時間帯での歩行や、就寝前の更衣等、時間帯によって変化する身体のコンディションに応じた関りが可能です。

- 買い物訓練、調理訓練、バスの乗車訓練、趣味活動などを行います。
- 職場復帰についても積極的に取り組みます。
- 家屋調査も行なっております。

ある患者様の
一日の流れ
Flow



食事は食堂で

食事動作訓練

自主訓練

着替える

屋外歩行

365日途切れることなく
リハビリテーションを提供

土・日・祝日はもちろん、お盆期間や年末年始も無休でリハビリが行えます。

■患者様1人当たりの実施時間
1日2～3時間 ※令和4年3月時点

医療技術部長 兼
リハビリテーション科
課長 波多野 崇

病気、ケガによって入院期間は異なります。医療連携室 お問い合わせ下さい。4ページ ▶



理学療法士 (PT) とは Physical Therapist

ケガや病気によって障害を受けてしまった時に、基本的な動作である「起きる」「座る」「立つ」「歩く」などの動作を回復もしくは維持することを目的とします。
装具を使用しての歩行練習筋力向上を目的とした多種のマシーンを用意しています。担当の理学療法士が患者様の状態に応じて負荷量やプログラムを作成いたします。
また、入院患者様の自主練習用に開放もしています。



作業療法士 (OT) とは Occupational Therapists

作業療法では、基本的な動作から応用動作能力、社会の中で適応する能力を維持、改善し「そのひとらしい」生活の獲得を目指します。
基本動作能力)
運動や感覚、心肺や精神・認知などの心身機能の改善を目指します。
応用動作能力)
日常生活で必要となる活動(食事、トイレ、家事など)の能力改善を目指します。
社会的適応)
地域活動への参加、就労を支援します。



言語聴覚士 (ST) とは Speech-Language-Hearing Therapist

言語聴覚療法は主に脳の病気によって生じる言語障害や飲み込みの障害、注意力や記憶力の障害等の様々な後遺症に対して、個々の患者様に適した訓練を実施し職場復帰や在宅復帰が出来るように支援します。



リハビリテーション科

リハビリテーションという言葉は、リ(Re : 再び)ハビリテーション(Habilitation : 適した)という意味を表しています。

私たちは、患者様が日常生活における生きがい・やりがいを獲得されることを目指しています。
チームアプローチの中で理学療法士・作業療法士・言語聴覚士それぞれの専門分野を生かしつつ、お手伝いさせていただきます。



トイレ動作訓練

ご自身でトイレに行けるよう、退院先の住環境も考慮しながら行います。夜間の状態など、24時間の生活を見据えた関わりを行っています。



入浴動作訓練

リハビリ室の浴室を用い、実際に入浴を行います。手すり設置等の環境調整についてのご相談も承ります。



調理動作訓練

リハビリ室の台所を用い、実際に調理を行います。調理の練習だけでなく、管理栄養士と共に、適切な塩加減や調理方法の確認も行っています。

在宅復帰に向けたサポート

リ(Re : 再び)
ハビリテーション
(Habilitation : 適した)



装 具

装具は運動の補助や痛みの軽減などを図る医療用具です。患者様の状態に合った装具を選び、入院早期から立位訓練や歩行訓練を行います。



マシーンをを使った訓練

様々なマシンを使用して、生活に必要な動作に合わせて、個々の筋力の増強や持久力の向上を目指します。



病院外での訓練

バス乗車練習、店舗における買い物練習など、入院中であっても職員が同行し、実場面での練習を行います。



訪問指導

退院後の生活場面(ご自宅や施設など)に職員が同行し、移動や生活動作の確認、段差解消などの環境調整をご提案します。



摂食機能訓練

食物の取り込み、咀嚼、嚥下に特化した訓練です。対象となる患者様へは入院中のリハビリとは別に、時間を設けて実施しています。



食事動作訓練

食事姿勢や集中力、箸やスプーンの操作性、道具の工夫など、あらゆる視点からご自身で食べられるようサポートします。



整容動作訓練

健康維持のみならず、私たちが人と会うための大切な準備工程でもあります。ご入院中から自身で行えるようサポートします。



更衣動作訓練

心身機能に応じた方法で、動作の獲得を目指します。脱ぎ着しやすい服の素材や形状についても、アドバイスさせていただきます。



スピーチ(会話)訓練

話す・聞くなどの、コミュニケーションの基礎となる訓練を行います。



ドライブシミュレーター

神経心理学検査、ドライブシミュレーターの結果をもとに、必要であれば自動車学校での実車評価を実施しています。※最終的な運転再開の可否は免許センターで行われます。



北九州市、山口県には脊髄損傷患者様を積極的に受け入れてくれるリハビリテーション施設は極めて少ないのが現状です。なぜなら脊髄損傷患者様のリハビリには高い専門性が求められるからです。脊髄損傷を起こすと、運動麻痺、感覚障害、自律神経障害、排尿排便障害など脊髄損傷特有の様々な障害が生じます。さらに損傷高位や損傷程度によっても目指すべきゴールが異なってきます。

そこで当院では専門の医師と専任のスタッフがチームとなって連携し、個々人に応じた到達可能と思われる目標を設定します。そのために十分な量と質の高いリハビリテーションを提供することで最大限の機能回復を図り、さらに自宅環境の調整も行うことで日常生活への復帰さらには社会復帰を目指します。また、退院後も外来リハビリ、訪問リハビリや外来での定期診察などを通して、その後の人生にも積極的に関わっていきます。



WEB SITE



スタッフ紹介

当院脊椎チームは小川医師を中心に、理学療法士3名、作業療法士1名の計4名で日々、患者様のリハビリテーションを実施しております。質の高いリハビリテーションを行うため、日々自己研鑽を積んでいます。



【入会学会】

日本理学療法士学会、日本作業療法学会、日本脊髄障害医学会

【取得資格】

認定理学療法士(脊髄障害2名 / 脳卒中1名 / 運動器1名 修士(医療福祉教育・管理学1名)

【実績一覧】

学会発表27件、論文執筆:14件(2016~2022年)

当院の特徴

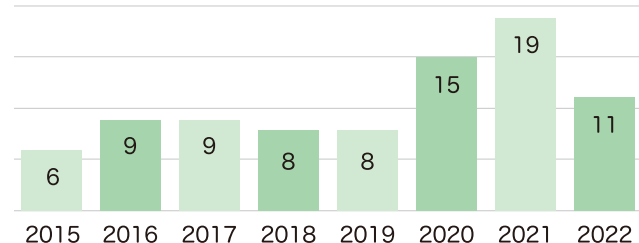
多くの患者様と交流を図りリハビリテーションに加え、自主訓練も実施しております。スタッフ一同、努力して参ります。何卒、よろしくお願い致します。

当院は脊髄損傷患者様専用のトイレや車椅子、物品など多く取り入れてリハビリテーションを提供致します。



当院の実績

【年度別外傷性脊髄損傷患者数】〈2015~2022年度〉



心臓リハビリテーションでは、心疾患(心筋梗塞・心臓手術後・心不全など)患者様が、快適な家庭生活や社会生活に復帰出来るように専門のスタッフにより体力評価を行い、患者様一人一人の状況に応じた安全に効果的な運動療法を提供しています。また、心疾患の再発、悪化、再入院を防止するために多職種と連携し、パンフレットなどを活用しながら内服、食事、禁煙などを含む生活習慣の見直しや改善を図れるように関わらせて頂いています。

当院では、平成20年7月より心臓リハビリテーションを開始しており、豊富な実績があります。また、心臓外科医の院長をはじめ、心臓リハビリテーション指導士や心不全療養指導士など、有資格者が多く在籍しており、質の高いリハビリテーションを提供することが可能となっています。

作業療法士による運動療法や生活へのアドバイス

当院には心肺運動負荷試験装置(CPX)が設置されています。CPXにて得られる検査値は科学的な根拠が高く、安全で効果的な運動が処方出来ます。得られた検査値を参考に患者様に対する運動療法や生活へのアドバイスに役立てています。

管理栄養士と作業療法士による栄養指導・調理訓練

心疾患と生活習慣は深く関係しています。その中でも食生活が非常に関連性が高いと言われています。

当院では生活指導の一環として、管理栄養士と作業療法士による栄養指導・調理訓練を必要に応じて実施しております。



当院でご用意している機器の一部を紹介します。



Ⅰロボットスーツ(写真HAL)

「立つ」「座る」といった、生活の基本となる動作をロボットがアシストします。脳卒中や骨折、脊髄損傷、パーキンソン病といった幅広い疾患の方に対応可能です。



ⅠAYUMI EYE(アユミアイ)

立位姿勢や歩行時の重心動揺を測定する評価機器です。客観的データに基づき、より精密な評価、アプローチが可能となります。



ⅠVRカグラ

VR(Virtual Reality:仮想現実)技術を用いた治療機器です。脳卒中や骨折、脊髄損傷、パーキンソン病といった幅広い疾患の方に対応可です。



ⅠPOPO

専用のハーネスを装着し、モーターの力で身体を支えながら歩行訓練が行える歩行器です。立位保持が困難な患者様も、早期から歩行訓練を開始できます。



Ⅰダートフィッシュ

歩行や生活動作の動画に対して、関節可動域や運動軌跡を解析できる動画解析ソフトです。(関節可動域:肩や膝など、各関節が運動する範囲のこと)



ⅠReoGo-J(レオゴーJ)

モニターに表示される課題に応じて、手元のレバーを操作する上肢治療ロボットです。脳卒中片麻痺の患者様を主な対象として、運動麻痺の改善を図れます。(上肢:肩から指先までの部位のこと)



Ⅰ座圧測定器

座位姿勢で臀部に加わる圧力を、タブレット上に表示できる解析装置です。姿勢調整や、褥瘡(床ずれ)予防に活用できます。



Ⅰ吊り下げ式トレッドミル

機械で身体を吊り下げた状態で使用できるウォーキングマシーンです。脊髄損傷の方を中心に、安全かつ効率的な歩行訓練が可能です。



退院後のリハビリテーションについて・・・

外来リハビリテーションは、かかりつけ医からの紹介、または急性期病院や回復期リハビリテーション病棟退院後のリハビリテーションです。日常生活で不自由を感じている方、職場への復帰を目指している方、自動車運転の再開を目指している方などが外来リハビリテーションを利用されています。

当院での外来リハビリテーションでは、身体機能の回復や健康だけを目指すのではなく、「住み馴れた地域で自分らしく生きること」を目標に支援しています。

退院後の生活に不安がある方をサポートします



実施日時

午前の部 9:00～13:00

午後の部 14:00～17:00(言語療法のみ)

実施日 月～土曜日(日曜・祝日・年末年始は休診)

外来リハビリテーションの流れ・・・

バイタルチェック



医師の診察



個別性のあるリハビリ



身体機能の向上を図りたい方、不安な方をサポートします



Ⅰ医師の診察

外来リハビリテーション前に、医師の診察が毎回あり体調確認を行っています。



Ⅰ上肢機能訓練

上肢用ロボット運動装置や電気治療機器など使用し、上肢機能向上や拘縮の予防、及び関節可動域の改善を行っています。



Ⅰ自動車運転の再開支援

脳機能の検査やドライビングシミュレーターなどを行い、自動車運転の再開支援のリハビリテーションを行っています。



Ⅰ筋力強化訓練

徒手療法や様々な機器などを使用し、筋力強化を図っています。



Ⅰ進行性疾患に対するリハビリ

パーキンソン関連疾患に対するリハビリテーションを行っています。その一つとしてLSVT-BIG など行っています。



Ⅰ歩行分析

AYUMI EYE やダートフィッシュなど使用し、歩行の分析を行っています。

職場復帰を目標にしている

興味がある方、詳しく知りたい方はお気軽にお問い合わせ下さい。

医療連携室 医療ソーシャルワーカー TEL 083-232-5811

自動車運転を再開したい

※送迎のない範囲の方も、ご家族の送迎やご自身で来られる場合はご利用可能です。

訪問リハビリテーション

生活している場所で
実生活に沿った
リハビリテーションを
提供します

訪問リハビリテーションとは・・・

訪問リハビリテーションとは、利用者の自宅を訪問し、心身の機能の維持・回復、日常生活の自立を支援するために、リハビリテーションを行うサービスです。在宅生活において日常生活の自立と社会参加を目的としています。
当院では、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士による訪問リハビリテーションを提供しています。ケアマネージャーなど関連職種と連携し、利用者本人やご家族の生活再建・安定を支援していきます。

当事業所の特徴・・・

- 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の様々な角度からのアプローチを行います。
- 関連職種と連携し専門性を発揮します。
- 具体的な目標設定を行い、より活動的に社会参加へ繋がります。
- 社会参加に繋げて生活範囲の拡大を行います。

活動・参加への取り組み・・・

【ADL(日常生活動作)の向上】

自宅内移動やトイレ動作、入浴動作等を安全に行えるような動作練習、自主練習、環境調整を行います。

【IADL(手段的日常生活動作)の向上】

買い物、洗濯等の家事全般や、服薬管理、交通機関の利用等が行えるように、本人だけではなく家族への指導や連携を行います。

【家庭内での役割】

ゴミ捨てや新聞を取りに行く、洗濯物をたたむ等の家庭内での役割を見つけます。

【外出や趣味活動】

自宅周辺だけでなく、バスを利用して外出するなど生活範囲の拡大を行います。

実施日時

時間 9:00～13:00

実施日 月～金曜日(祝日も実施)

訪問エリア 下関旧市内(下関駅周囲・彦島地区・安岡・山の田・唐戸・長府等)エリア外でも対応しておりますので詳しくはご相談ください。



当院スタッフが
ご自宅に伺います。



Q、訪問リハビリ
テーションを
利用するには？

A、対象者は介護保険の認定を受けている方で、65歳以上の第1号被保険者と、40歳から64歳までの第2号被保険者となります。また主治医から診療情報提供を受けてから当院の医師の診察も必要です。

興味がある方、詳しく知りたい方はお気軽にお問い合わせ下さい。

リハビリテーション科 TEL 083-228-6600

通所リハビリテーション

通所リハビリテーションとは・・・

- 介護保険で要支援もしくは要介護に認定された方を対象とした、リハビリテーションです。
- 最新のマシン機器等を用いた筋力トレーニングとセラピストとのマンツーマンのリハビリです。

当事業所の特徴・・・

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が必要に応じて、利用者様の目標に沿って個々のリハビリプログラムを提供しています。
2時間程度の短時間にて、マシンを使用したパワートレーニングや歩行訓練、自主トレーニング指導等のリハビリを実施しています。

実施日時

午前の部 10:00～12:00

実施日 月～土曜日(祝日も実施)

午後の部 14:00～16:00

定員 23名 (山陰方面5名・山陽方面5名・彦島方面5名・送迎無し8名)

【送迎は3方面】・山陰方面(安岡付近まで)・彦島方面(彦島全域)・山陽方面(長府浜浦台付近まで)

いきいき健康館で午前と
午後の2回実施しています。
様々なトレーニングマシン
でリハビリができます！

当院スタッフが
ご自宅まで送迎
いたします。



身の回りの事を
自分で出来るように
になりたい



外出の機会を
増やしたい

興味がある方、詳しく知りたい方はお気軽にお問い合わせ下さい。

リハビリテーション科 直通 TEL 083-228-6600

短時間で
運動したい

※送迎のない範囲の方も、ご家族の送迎やご自身で来られる場合はご利用可能です。

総合事業で健康づくり

日常生活支援
楽しく体操！

介護予防
転倒予防
認知症予防

専門職と一緒に
運動する習慣を
つくりませんか？

介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）のご案内！

要支援認定者と65歳以上の**事業対象者**の方を対象とした**短時間運動特化型**のサービスです。現在は自立した生活でも今後が不安な方や歩行に自信がなくなった方など。
リハビリの専門職による運動や相談をしてみませんか？

定期的な運動は
認知症や転倒を
予防します！

「事業対象者」とは？

お近くの地域包括支援センターにて基本チェックリストに基づく調査を受けます。
介護予防・生活支援サービス事業の対象者と判断された方が事業対象者に認定されます。

「短時間運動特化型」とは？

介護・認知症・転倒予防を目的とした運動を、90分間行う通所型のサービスです。



※送迎はありません

実施状況	月	火	水	木	金
10:00～11:30		しっかり運動 + 体を使って脳トレ	しっかり運動 + 体を使って脳トレ		
14:00～15:30	座って運動 + 脳トレ(プリント)		しっかり運動 + 体を使って脳トレ	しっかり運動 + 脳トレ(プリント)	

定期的(半年毎)に、
身体機能評価を分析する
「体組織測定」で
栄養状態や筋肉量も
チェック!!

体の変化を早期発見、
予防に役立ちます。

計測方法は
簡単です！

InBody(インボディ)
医療用体成分分析装置

持ち運び式の体組成計です。
筋肉量や脂肪量、体水分量などを部
位別に高い精度で測定し分析します。

ご利用は週1回
となります。

興味がある方、詳しく知りたい方はお気軽にお問い合わせ下さい。

いきいき健康館 直通 TEL 083-242-1161

看護部



私たち看護部は、患者様が毎日のリハビリテーションに集中できるよう体調管理を行い、訓練でできるようになった機能動作を療養生活の中に取り入れ、安心して在宅復帰ができるように努めております。

患者様に寄り添う看護を目指し、最良の看護が提供できるように努力いたしております。

看護部理念

真心と確かな知識と技術で患者様の健康を支援します。

看護部基本方針

- 01, 患者様の健康回復を目指し、質の高い安全で安心なリハビリテーション看護を提供します。
- 02, 他部門と協働し、患者様中心のチーム医療を提供します。
- 03, 地域社会と連携を図り、患者様が安心して暮らせる地域づくりに貢献します。

健康管理

患者様が、リハビリ治療に集中できるように、日頃の健康状態のチェック、お薬の管理、療養上の支援を行っています。



チームカンファレンス

患者様が、ご自宅に帰れるような支援が必要であるかを話し合い、必要に応じて退院指導も加えて、不安なくご自宅に戻れるよう心がけております。



退院支援

退院に向けての準備を退院支援看護師などと連携をはかり、退位後の生活が円滑に行えるようにサポートしております。



現在、管理栄養士が5名在籍しています。
当院では入院診察に管理栄養士も同席しています。
その場で食事形態やアレルギーの確認等をさせていただき、医師の指示のもと食事内容を検討しています。
各階1名の管理栄養士が病棟配置されており、入院早期からご様子も把握させていただくことで、栄養補助食品の提供を始め、迅速な対応をさせていただきます。



その他、介護予防教室へ、要介護状態になるのを早期から予防するために、リハビリスタッフとともに近隣施設や公民館へ訪問しています。介護予防、認知症予防に効果のある食材や献立、調理方法などの講話を行っております。

患者様への栄養指導に関しても、入院中、外来栄養指導はもちろん、今後は訪問栄養指導も予定しており、疾患の再発予防のための食事提供をさせていただきます。



「美味しく 楽しく 安全にエネルギーアップ！」

というスローガンの下、管理栄養士ならではの視点をモットーに、少しでも皆様にご満足いただけるような食事のご提供を心掛けて参ります。



ご提供内容に関しては、より良い内容となれるよう職員間の勉強会や試食会などの活動を通して、随時検討させていただいています。

NST(栄養サポートチーム)

リハビリテーションを行う上で、栄養状態はとても大切です。栄養が不足していると筋肉はつきません。リハビリテーションを進めるとともに栄養管理は重要とされています。

当院では栄養管理を他職種で支えるチーム医療NST(栄養サポートチーム)があります。更に、体重変化においてどの分画が変化したのかを詳しく評価することができるInBody(医療用体成分分析装置)を取り入れ、今までにない一歩進んだ取り組みを行っています。

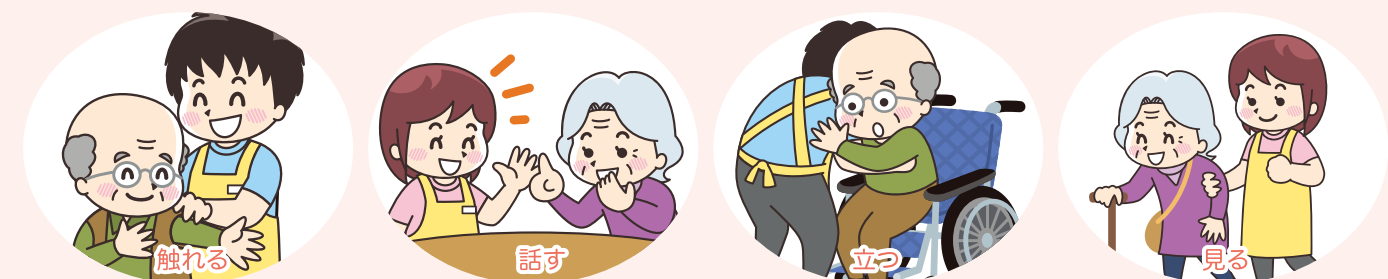


集団立ち上がり訓練

当院では入院している患者様に集団での立ち上がり訓練を実施しています。個別リハビリ以外でも運動することで、下肢筋力の訓練の量が増え、筋力増強により起立動作・歩行動作などの安定を図っています。リハビリスタッフが介助しますので、安心して参加していただけます。

認知症ユマニチュード

当院では、認知症患者様に対するケアの質向上を図るべく、「ユマニチュード」の普及に向けて取り組んでいます。ユマニチュードとは、「見る」「話す」「触れる」「立つ」の4つの基本的なテクニックに基づくコミュニケーション技法の事で、近年、認知症ケアのスタンダードとして、日本でも注目されてきています。ユマニチュードを導入している施設では、認知症行動心理症状が軽減したなど、ユマニチュードの有効性が、徐々に報告され始めています。多くの不安を抱える認知症患者様へ、安心したケアを提供できるよう職員一同努めています。



排泄ケアチーム

入院患者様の生活の質を向上させるために排泄の問題は非常に重要です。

当院では、医師・看護師・看護補助者・リハビリからなる排泄ケアチームがあり、専門的な見地から排泄に対するアプローチを行っています。排泄トラブルが解決すれば紙おむつの俟約や家族の介護負担軽減、生活の質の向上が大いに期待できます。

病院施設 (全25病院)



学校施設 (全8校)



一般社団法人 巨樹の会

下関リハビリテーション病院

〒750-0064

山口県下関市今浦町9番6号

☎ 083-232-5811

☎ 083-232-0219

🌐 www.shimoreha.jp

✉ info@shimoreha.jp



WEB SITE

アクセス方法

- 下関駅より徒歩5分
- サンデン交通竹崎バス停より徒歩1分

